

大きくなれた自分～サービスラーニングの活動を通して～

活動先：NPO 法人 りんりん

1. 自分の成長と気づき

1) 積極性

このサービスラーニングをするまでは、人前において自分から動くことがなかった。しかしこの活動の中で、自分から積極的にいかなければ何も始まらないことがわかり、以前よりも積極的に行動を起こせるようになった。

私は高齢者デイサービスで活動させていただいたが、利用者の方とコミュニケーションをとることが一番大変であった。利用者の方から私に話しかけてくれることがほとんどない上に、利用者の方同士が話されている輪の中に入ることができなかつたため、全く喋ることができなかつた。しかし「お名前は何と仰うのですか」「今日は暑いですね」などと話しかけると、自分の言葉に答えてくれた。この体験から、利用者の方から話しかけられることを待っているのではなく、自分から話しかけなければいけないことに気づいた。そして自分から話すきっかけを作るためには、日頃から新聞を読む、ニュースを見る、本を読むなど社会のことを知り、話題をたくさん持てるようにしようと考えようようになった。

2) 考え方

今まではデイサービスの利用者の方のことを「お客様」として考えたことがなかつたことから、どこかで「お世話をしてあげている」と思っていたかもしれない。しかし、りんりんでの活動を通して利用者の方のことを「お客様」と考えることを知った。

例えば、話すときは目線の高さを同じにして話すように心がける。決して利用者の方を上から目線で見たり、接したりするのではなく、利用者の方を敬い、人生の先輩として接することを学んだ。介護する人と利用者が上下関係になっておらず、利用者の方を尊重して接していることがとても印象的に残った。

また、自分たちが考えた活動プランを利用者の方全員がやってくださるだろうという意識を持っていた。しかしこれは自分の勝手な思い込みであり、利用者の方の状況を把握できていなかった。この機会に気づくことができ、とても良い機会になった。

2. この活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

1) ヘルパー不足

りんりんでは特に若い年代のヘルパー不足が課題である。りんりんでは働いている従業員は常勤者14名、職員52名、登録ヘルパー67名で活動しているが、ヘルパーが高齢化しているため若い年代のヘルパー確保が必要になっている。入浴や排せつ介助はどうしても力仕事になってしまうので、高齢のヘルパーにとっては限界があると考えられる。施設職員の人手不足が深刻になっているが、NPOでも同様に人

手不足が深刻になっていることがわかった。

そこで若い年代の人たちに向けてのヘルパー活動を広めていくことが重要になってくると考える。りんりんの活動で学んだ、利用者の方に行き届いたサービスや個人を尊重する姿勢などの魅力を、私が他の人に伝えることができれば、若い人もヘルパーに参加してくれると思う。

2) コミュニケーション

りんりんでは高齢者デイサービスの他に地域ふれあい事業として、生き生きサロンを行っていた。この生き生きサロンは普段からデイサービスに来られている人ばかりではなく、近所の方など様々な人が来られている。

私が参加したときは、参加されている人の中に4人のグループで来られており、4人が同じテーブルに座って会話をしながら食事をされていた。仲良しの4人で楽しむことも良いが、せっかく生き生きサロンに来ているのだから他の参加者や顔見知りでない方と食事をしながら話してみるようにしてはどうだろうか。他の人と話すことで新しい友達ができたり、新たな自分を発見することができるかもしれない。

一方、デイサービスでは女性の利用者の方同士が話をされており、男性の利用者の方と話されている姿をあまり見なかったように感じた。このことから男性の利用者の方も会話に入りやすくするような、居場所・環境づくりが必要だと考える。

3) 財政面

りんりんでは2009年現在、1億1700万円の事業収入を得ている。このうちほとんどが介護保険事業からの収入で成り立っており、助成金・委託金に頼ることなく大きな活動を広げているのは珍しい。ほとんどのNPOは安定した収入でなく、活動を維持していくことは容易ではない。そのため、お金に困ることなく持続して経営していけるような制度が必要である。

また、法人格を取得した法人が基準を満たせば介護保険の指定事業者となる。これによって社会福祉法人や医療法人と同じく指定業者として参入できるようになった。そこでNPO法人と社会福祉法人を比較してみると、根拠法や課税に対して相違点があることがわかった。これに関して、税制上の優遇措置については見直す必要があると考える。